



家族に囲まれ笑顔を見せるナヨさん

ナヨさん100歳おめでとう

須藤ナヨさん（木造永田）が8月15日、めでたく100歳の誕生日を迎えられました。大正7年生まれ、牛潟町出身。公務員と農業を兼業していた亡夫・時雄さんを支えながら6人の子を授かり、孫12人、ひ孫15人、玄孫1人に恵まれました。現在は木造の老人保健施設に入所中で、介護職員や面会に来る家族の手を借りながら穏やかに過ごしています。

8月23日、入所先の施設で市の白戸福祉部長からナヨさんに顕彰状が手渡され、駆けつけた家族8人が祝福。記念品を受け取ったナヨさんは「何入ってらば〜？」と尋ね、周囲の笑いを誘っていました。家族によると、食欲旺盛で何でも食べることが長寿の秘訣とのこと。

野呂加南子さんが高校総体V&「ベスト6」

全国高校総体バレーボール大会で優勝した下北沢成徳高校（東京都）3年の野呂加南子さんが8月31日、市役所を訪れ福島市長に喜びを報告しました。

野呂さんは木造福原出身。稲垣ジュニアクラブで全国3位、稲垣中で全国16強など、小学生の頃から大舞台で戦ってきました。高校総体でも主力アタッカーとして躍動。チームが初戦から1セットも落とすことなく優勝する原動力となり、大会の最優秀メンバー「ベスト6」に選ばれるほどの活躍を見せました。

野呂さんは「楽しかった。主力として勝ち取った優勝はうれしい」と大会を振り返り、「実業団で力をつけ、日の丸を背負って戦いたい」と日本代表への意欲を語りました。



優勝を報告した野呂さん。右は稲垣町バレーボール協会の岡本幸剛会長



左から材木谷さん、松橋さん、吉田さん

明るく住みよいまちづくりへの思いを語る

9月3日、木造中学校で第66回つがる市少年防犯弁論大会が開催され、市内5中学校から集まった11人が、非行防止などをテーマに壇上で熱弁をふるいました。

審査の結果、1位に輝いたのは「一つの命」と題して発表した松橋初果さん（木造中2年）。思春期教室をきっかけに考えた命の大切さや親の愛情を受けて生きていることへの感謝を堂々と語りました。松橋さんは「みんなが状況を想像できるように抑揚をつけて表現した。お母さんにありがとうと伝えられてよかった」と振り返りました。

2位には材木谷菜摘さん（木造中3年）、3位には吉田にこさん（柏中3年）が選ばれました。

共に歩んで50年、60年

つがる市福祉顕彰式が9月6日、松の館で開催され、長年連れ添った夫婦の節目を祝いました。今年市から顕彰されたのは、ダイヤモンド婚夫婦（結婚60周年）14組、金婚夫婦（結婚50周年）17組です。式典では、福島市長が出席者に顕彰状を手渡し「今日は共に支え合ってきた二人の一つの節目。今後も豊富な知識と経験で市政へのご支援をお願いします」と式辞を述べました。また、ともに88歳以上の夫婦29組に対し、西北地域県民局の竹島徹地域健康福祉部長が県知事顕彰を行いました。

式典後には、もりた保育園と菰槌保育園の園児がアトラクションを披露。元気に踊る子どもたちの姿に、出席した夫婦らが笑顔で拍手を送っていました。



顕彰状を受け取るダイヤモンド婚夫婦

津軽の空で全国の凧競演

9月16日、日本の凧の会秋季つがる全国大会が岩木川河川公園で開催され、北海道から沖縄まで23都道府県から集まった約200人の愛好家が、津軽の空で凧揚げを楽しみました。

日本の凧の会と開催地の関係団体が主催する大会で、県内ではこれが2回目。この日は風が弱く凧揚げが難しいコンディションでしたが、参加者は自慢の腕前を駆使して凧を舞わせ、各地の伝統凧やアイデア満載のユニークな凧が空に並びました。

デザインや空での安定感などが審査され、最高賞である心護杯は、小さな「すずめ凧」を揚げた柴田利昭さん（東京都）が受賞。研究と努力によって実現した、軽量・コンパクト・優れた飛翔性能が評価されました。



自慢の凧を揚げる愛好家たち



ゴールを目指す参加者

地域を見守りながらウォーキング

むらおこし拠点館フラットを主会場に9月8日、地域安全ウォーキングin車力が行われ、県内外から集まった約240人が、心地よい汗を流しました。このウォークは、地域の防犯と交通安全の啓発などを目的に開催され今年で15回目。ウォーク後の地元産食材を使った昼食やお楽しみ抽選会も毎年好評です。

この日は雨が心配されましたが、開始前には晴れ間がのぞく過ごしやすい天気。参加者は5km、9km、15kmのコースに分かれてスタートし、黄金色に色付いた風景を楽しみながらゴールを目指しました。先頭でゴールした中村恭章さんは「風が心地よくウォーキング日和だった。麦とろ飯としじみ汁が楽しみ」と額に汗を光らせていました。

図書の充実に役立てて

県西部郵便局長会つがる部会（部会長・秋元純一車力郵便局長）が9月18日、市立図書館が2周年を迎えたことを機会に、市に10万円相当の図書一式を寄贈しました。

同部会は、西北五地域の14郵便局長で構成され、これまでも市へのLED防犯灯の寄贈や海岸清掃など、様々な形で社会貢献活動を実施。図書の寄贈は、一昨年の図書館開館前に続き、2回目となります。

市役所で行われた贈呈式では、秋元部会長が「図書館の発展に役立ててください」と福島市長に目録を伝達。福島市長は「来館者数も順調に伸びている。更なる活性化のため大事に使わせていただきます」とお礼を述べました。



目録を贈呈した秋元部会長



マブナの稚魚を放す園児

園児がマブナの稚魚を放流

かしわこども園（鳳至真貴園長）とかしわあっぱるこども園（山崎笑子園長）の年長児36人が9月20日、平滝沼にマブナの稚魚を放流しました。これは、地域の子どもたちに自然や魚に触れながら生態系を保全することの大切さを学んでもらおうと、西津軽新田漁業協同組合（伊藤良二代表理事組合長）が毎年実施しているものです。

この日、水辺に並んだ園児たちは、バケツの中で泳ぐ稚魚に「大きくなってね！」と声をかけながら優しく放流。魚が見えなくなるまで手を振って見送っていました。かしわあっぱるこども園の小山内大翔君（5歳）は「お魚を触ってみて楽しかった。大きくなるのが楽しみ」と体験を振り返っていました。